

機関名	奈良先端科学技術大学院大学	整理番号	b033
主たる研究科・専攻等名	バイオサイエンス研究科分子生物学専攻		
教育プログラム名	フロンティアバイオ教育プログラムの構築		
取組実施担当者 (責任者)	小笠原直毅		

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会における事後評価結果

<p>【総合評価】</p> <p><input type="checkbox"/> 目的は十分に達成された</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的はほぼ達成された</p> <p><input type="checkbox"/> 目的はある程度達成された</p> <p><input type="checkbox"/> 目的は十分には達成されていない</p>
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>最先端のバイオサイエンス研究を背景とした、バイオサイエンスの研究人材やバイオサイエンスを社会に役立てる人材を養成するという目的に沿って、着実に計画が実施されている。学生の勉学の進捗によって選択される2コース制、後期課程での国際教育プログラムが計画に沿って実施され、成果が上がっている。本教育プログラムは、大学院大学の特徴に即したもので、一つの有用なモデルとして評価できる。</p> <p>情報発信に関しても積極的に行われており、評価できるが、学生による具体的な成果、活動状況が示されると更に効果的であると思われる。</p> <p>多人数の大学院生に対して教育プログラムを実施することに伴う事務面での負担の改善策まで考えている点は将来に向けて十分な検討がなされていると評価できる。提案された研究分野は他の分野との交流が重要ではないかと思われるが、この点も将来に向けた検討課題とし、検討が加えられることが望まれる。</p>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学時の学修到達度や入学の目的の違いなど、大学院大学の教育の持つ困難に対して、エキスパートバイオコース、フロンティアバイオコースの2コース制などきめ細かい教育プログラムが構築されている。 学生の海外への派遣に関して研修内容を充実させる目的で、教員の海外派遣による成果の調査や、集中講義への講師の招聘など、海外の派遣先としっかりした連絡体制を築いている。 <p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様なレベルの学生に対して、きめ細かいプログラムが構築されているが、学生が自主性を発揮すべき博士後期課程への連続的なつながりができるよう配慮が望まれる。